

1 current situation and regional issues



第1章 台東区の 現状と 地域課題

ここでは、台東区の現状と地域で問題になっていることについて見ていくよ！
アンケートやヒアリング調査をしてみんなの声を聞いたら、いろんなことが分かったので紹介するね！



数字で 見る 台東区

人口 **21.3万人** ↗

〈出典〉台東区住民基本台帳(令和6年4月1日現在)

人口は213,486人で、5年前と比較すると約1.3万人増加しています。

15歳未満 **17,613人** ↘

15~64歳 **151,203人** ↗

65歳以上 **44,670人** ↘



5年前と比較すると15歳未満の人口が約640人の減、65歳以上の人口が約1,400人の減となっている一方で、15~64歳(生産者人口)は約15,000人の増となっており、大きく増加しています。

〈出典〉台東区住民基本台帳(令和6年4月1日現在)

一人暮らし世帯 **7.1万世帯** ↗

一人暮らし世帯は平成17年調査時に35,473世帯だったのに対し、令和2年調査時では71,778世帯で、15年間で大きく増加しています。そのうち、高齢者の一人暮らし世帯は15,848世帯となっており、平成17年調査時に比べ約6,000世帯増加しています。

〈出典〉令和2年国勢調査



高齢化率 21.5% ↓

高

齢化率（総人口に占める高齢者人口の割合）は減少傾向が続いています。今後もしばらく減少傾向が続く見込みです。

〈出典〉第9期台東区高齢者保健福祉計画 台東区介護保険事業計画
(令和5年4月1日現在)



要支援者及び要介護者

1万人 ↑

日

常生活において支援や介護を必要とする、「要支援者」及び「要介護者」の合計数は10,837人で、増加傾向にあります。

〈出典〉第9期台東区高齢者保健福祉計画 台東区介護保険事業計画
(令和5年10月1日現在)



身

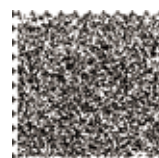
身体障害者手帳の所持者数は年々減少傾向になっていますが、その一方で愛の手帳及び精神障害者保健福祉手帳の所持者数は増加傾向にあります。

〈出典〉台東区行政資料集 (令和6年3月31日現在)
台東区保健所事業概要 (令和6年3月31日現在)

身体 **6,113** 人 ↓

知的 **1,054** 人 ↑

精神 **2,479** 人 ↑



ひとり親世帯 **1,000**世帯[↑]

(母子世帯・父子世帯)

ひとり親世帯は増加傾向にあります。平成 22 年調査時に 854 世帯だったのに対し、令和 2 年調査時には 1,010 世帯となり、156 世帯増加しています。

〈出典〉令和 2 年国勢調査

外国人住民の割合 **8.7%**[↑]



外国人人口は 18,663 人と、台東区の人口に占める割合は 8.7% と増加傾向にあります。台東区は東京都の中でも 4 番目に外国人住民が多い区です。東京都全体の人口に対する外国人住民の割合は 4.7% となっています。

〈出典〉台東区住民基本台帳 (令和 6 年 4 月 1 日現在)

自殺死亡者数 **45**人[↑]

年によって増減の幅が大きく、令和 3 年からは増加傾向にあります。人口 10 万人あたりの自殺死亡者数を表す自殺死亡率は、過去 10 年間で全国や東京都と比較して常に高くなっています。

〈出典〉台東区の HP より抜粋 (令和 6 年 3 月 31 日現在)



生活保護受給者数 **7,000**人[↓]

生 活保護受給者の数は7,022人で、5年前に比べ約1,500人の減となっており、減少傾向にあります。

〈出典〉台東区行政資料集(令和6年3月31日現在)



町会加入率 **52.3%**[↓]

町 会への加入状況は、「入っている」が52.3%、「入っていない」が46.0%、「無回答」が1.7%となっており、町会への加入率は以前と比べ、減少傾向にあります。

〈出典〉令和5年度台東区民の意識調査

民生委員・児童委員[※]の数 **198**名

台 東区の民生委員・児童委員の定数が213名に対し、198名となっており、不足しています。欠員の地区においては、随時、ふさわしい方を選任していきます。

〈出典〉台東区のHPより抜粋(令和6年6月30日現在)



※民生委員・児童委員

厚生労働大臣から委嘱^{いしよく}されて活動している無報酬^{むほうしゅう}のボランティア。住民の立場に立ってさまざまな相談に応じ、必要な援助を行う。





台東区民の皆さんに聞きました!

台東区区政サポーターアンケート調査・台東区民向けアンケート調査の結果から特徴的とくちょうてきな部分を抜き出し、掲載けいさいしています。

Q ご近所さんとの付き合いはありますか？

A 「相談したり、助け合える関係性」と答えた方が

16%

一番多かったのは「会った時にあいさつする程度」という方で43%でした。次いで「世間話をする程度」と答えた方が20%、「あまりお互いに干渉しない」と答えた方が15%となりました。



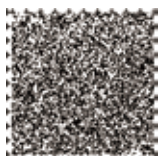
Q ご近所さんとの「理想」の関係性は？

A 「相談したり、助け合える関係性」と答えた方が

39%

年代が上がるほど「相談したり、助け合える関係性」が理想と感じる方が多い結果となりました。一方で、20%強の方が「緊急時や災害時に限定して助け合いができる関係性」が理想と回答していました。

その理由として、多くの方が「緊急時や災害時には自分や家族だけでは心細いから」「日頃から近所の人同士の助け合いは必要だと感じるから」と答えています。



理想と現実には
差があるなあ…



Q 近所付き合いを深める時に難しく感じることは何ですか？

A 「つながりを深める機会がない」と答えた方が **50%**

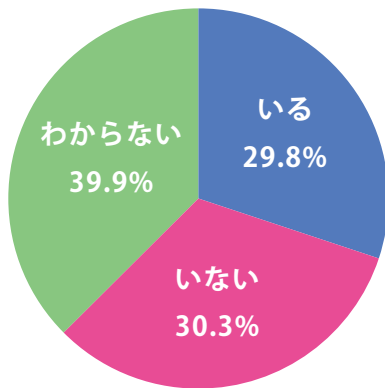
半数の方が「つながりを深める機会がない」と回答しました。次いで「つながりたい気持ちはあるが面倒」「人付き合いが苦手」という回答が続きました。



「地域のイベントが必要」「町会への入会方法が分からない」「知り合える場がほしい」といった“きっかけ”を求める声が多くありました！

Q あなたの近所に、生活が心配な人や助けが必要そうな人はいますか？

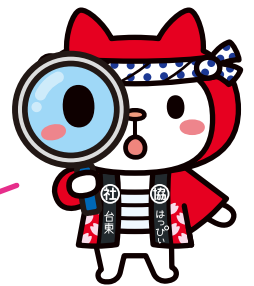
A



「いる」と「いない」を回答した方がそれぞれ約30%でした。また、「いる」と答えた方は70歳代が多い結果となりました。

「わからない」と答えた方は約40%と多く、30~50歳代が多かったです。

日中は働きに出ているから近所の様子はなかなか分からないかもね！



Q それはどのような人ですか？

A 「高齢者のみの世帯」と答えた方が **77%**

次いで「障害がある人」「子育てをしている人」「認知症の人」が約25%、「外国籍の人」「虐待の心配がある人」「近所から孤立している人」などが10%前後となっています。





台東区民でボランティア活動をしている皆さんに聞きました！

ボランティア活動者向けアンケート調査の結果から特徴的な部分を抜き出し、掲載しています。

Q どんな人がボランティア活動をしているの？

A 50~80歳代の方が全体の **81%**

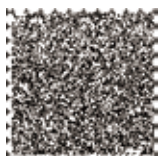
最も多かったのが「70歳代」で31%、次いで「50歳代」が23%、「60歳代」が20%と続きました。

男女比率は「男性」が16%、「女性」が83%で、圧倒的に女性が多いという結果になりました。また、ボランティア活動歴は「1年未満」と活動を始めたばかりの方から「20年以上」のベテランの方までさまざまでした。



みなさん地域のために日々活躍されているんですね！

若い人や男性の方ともっと協力していけるといいよね！



Q 活動に参加するようになったきっかけは？

A 「人のためになることをしたいと
思ったため」と答えた方が **65%**

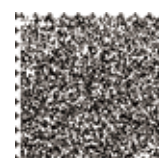
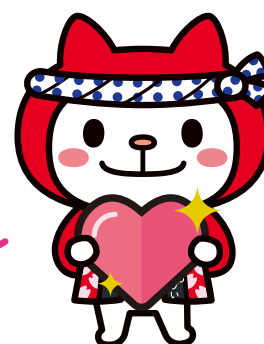
次いで「自身のスキルアップや生きがいのため」が34%、「時間があつたため」が33%、「人と関わりたい・つながりたいと思ったため」が30%と続きました。

「人のためにと考えて始めた活動だけど、
楽しいし学びにもなるし、
結果としては自分のためになっていた」
という意見も多くありました！



活動を知ったきっかけは、「区報(広報たいとう)で活動情報を見た」が56%、「家族・友人・知人から紹介された・誘われた」が27%、「チラシやポスターで活動の情報を見た」が16%という結果が出ています。

活動についての広報誌を見たことが
きっかけになったという人が多いけど、
家族や知人からの口コミがきっかけに
なったという人もいるみたいだね！



台東区地域福祉活動団体に に聞きました！

(地域活動者・専門職等向けヒアリング調査 61名・団体)

地域活動者や専門職、団体に所属する方々を訪問し、ヒアリングを行う中で特徴的な部分を抜き出し、掲載しています。

Q 最近の地域福祉活動において難しく感じるのはどのようなことですか？

「マンションが増えて**どんな人が住んでいるか分かりづらくなりましたね**。特に男性の一人暮らしだと他の人に相談しない人が多いかな。見守りのために訪問しても断られちゃう。それで結局熱中症などで亡くなった人(孤独死)が何人かいて…。プライバシーも大事だけど、**隣近所の人のおかしかったらすぐに気付いて連絡をくれるような、そういう関係があるといいな。**」



民生委員さん



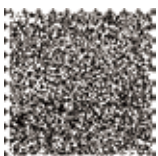
町会長さん

「やっぱり**災害時のことが心配**だね。台東区は住んでいる人だけでなく働きに来ている人も多いから混乱するだろうね。だからこそ**地域でどう対応するか具体的に考えて準備しておかないといけない**ね！最近外国人の住民がどんどん増えているから避難所などについての情報共有も大事だね！町会に入る人が減ってきて、地域のイベントやお祭りを続けていくのに困っているから、**新しい住民とももっとつながっていけるといいね。**」

「友愛訪問員は高齢者の一人暮らしの方や高齢者だけで生活する方々のお宅を訪問したり電話をしたりして、話し相手や安全の確認をする活動です。歴史ある活動ですがあまり知られていなくて、「利用したらお金を払わなくちゃいけないんじゃないか？」「難しい手続きが必要なんじゃないか？」と思われてしまうことも…。**もっとみんなに活動を知ってもらいたいし、個人的にはこういった活動を必要としているのは高齢者だけじゃないんじゃないかな**と思います。」



友愛訪問員さん



Q こんなことがあったらいいなと思うことはありますか？



子育て支援団体さん

「一見問題がないような地域に見えても、個々の家庭では問題を抱えていることってあるんです。自分だけで抱え込んでしまわないよう、つながって助け合っていけたらと思います。そういった**つながりを作るためのツール**がほしいです。それと、普通に生活する中にも子供たちの居場所や子供同士の助け合う力もあります。**手助けする側・される側ではなく、みんなで作る会にしたい**と思っています。」

「残念ながら今は地域・町会とのつながりが少ししかありません。もっと**住民の方々と安定的に関わりが持てれば**と思います。どちらかと言えば支援対象となりがちな方が、逆に地域福祉に貢献できるようになれるといいですね。**支援する側・される側の線引きがなくなって、お互いさまになればいい**ですね。以前地域住民みんなが混ざり合うボーダーレスな場に参加させていただいたことがありました。そういった機会がもっとあると**お互いの理解が深まる**んじゃないかと思います。」



生活困窮者支援団体さん



障害者支援団体さん

台東区には地域の住民が活動して手を取り合い、声をあげていくことでサービスができてきた背景があります。だけど今、活動を応援してくれる人や地域の支援団体の連絡会に参加する団体が減ってきています。そのため**住民や団体同士で情報交換ができる場や区(行政)とのつながりの強化が必要**だと感じます。

住民や地域との「つながり」を求める声や「活動を知ってもらいたい」「お互いさまで助け合いたい」といった声が多かったよ！他にも「人手が足りない」「次世代への引継ぎができていなくてピンチ!」といった意見も多くあったね。



知ってほしい！
調査を通して見えてきた
いま
台東区の“現状”

課題1

困っている人、「生きづらい」と感じている人が 増えている！

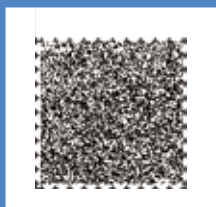
台東区の世帯構成の内訳をみると、一人暮らし世帯が増えているなど、人口構造の変化がみられます。さらにマンション建設の増加に伴い、町会への加入率の低下や、隣近所の付き合いも減少傾向にあります。そのため8050問題[※]やダブルケア[※]の問題、言語や文化の違いなど、誰にも相談できずに抱え込んでしまい、課題が複雑化・複合化してしまうケースや、孤独や孤立により、生きづらさを感じている人が増えています。

※8050問題

80歳代の親が、働いていない独身の50歳代の子供の生活を支えること

※ダブルケア

ひとりの人や一つの家族が同時期に介護や育児などに対応すること



課題2

つながりや支え合いの力が弱まっている！ 地域を見守る目や地域を支える人たちが足りていない！

台東区は町会が中心となって、安心・安全なまちづくりを担ってきたという背景があります。しかし、時代の変化とともに、少子高齢化、住宅構造の変化、地域のつながりに対する考え方の違いが生まれるなど、町会への関心が薄れ、担い手不足や世代交代ができないことなどが深刻化しています。

また新型コロナウイルス感染症により、人と人の接点が少なくなってしまい、交流の機会が失われてしまったことも、つながりや支え合いの力が弱まっている大きな要因となっています。



課題3

住民や地域活動団体などが知り合う機会が 少なく、お互いの強みを活かしてきれていない！

地域ではボランティア団体、NPO 法人、福祉事業所などが福祉的な視点を持って地域課題に取り組んでいます。本来であれば、各団体ごとの活動から団体同士のネットワークへつなげたり、地域住民の参加を通じて、活動を広げていく必要がありますが、現状では個々の活動に留まっているところがあります。住民と団体、団体同士が知り合うきっかけが少ないことなどから、連携、協働が生まれにくい環境になっています。



困っている人は増えてるけど
支え合いの力は
弱まっているんだね…

